

少女たちのお手紙文化

1890-1940展

変わらぬ想いは時を超えて

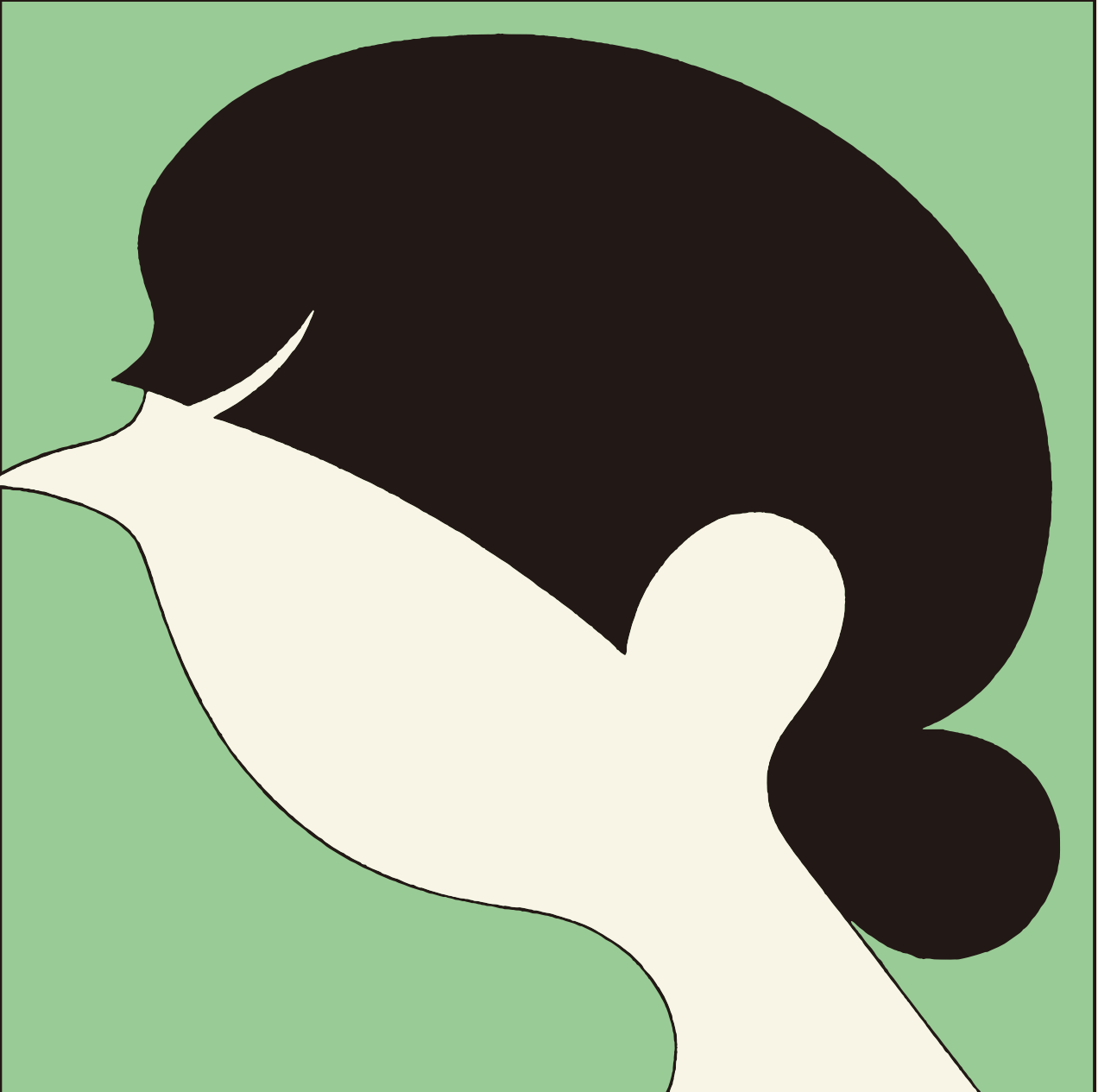
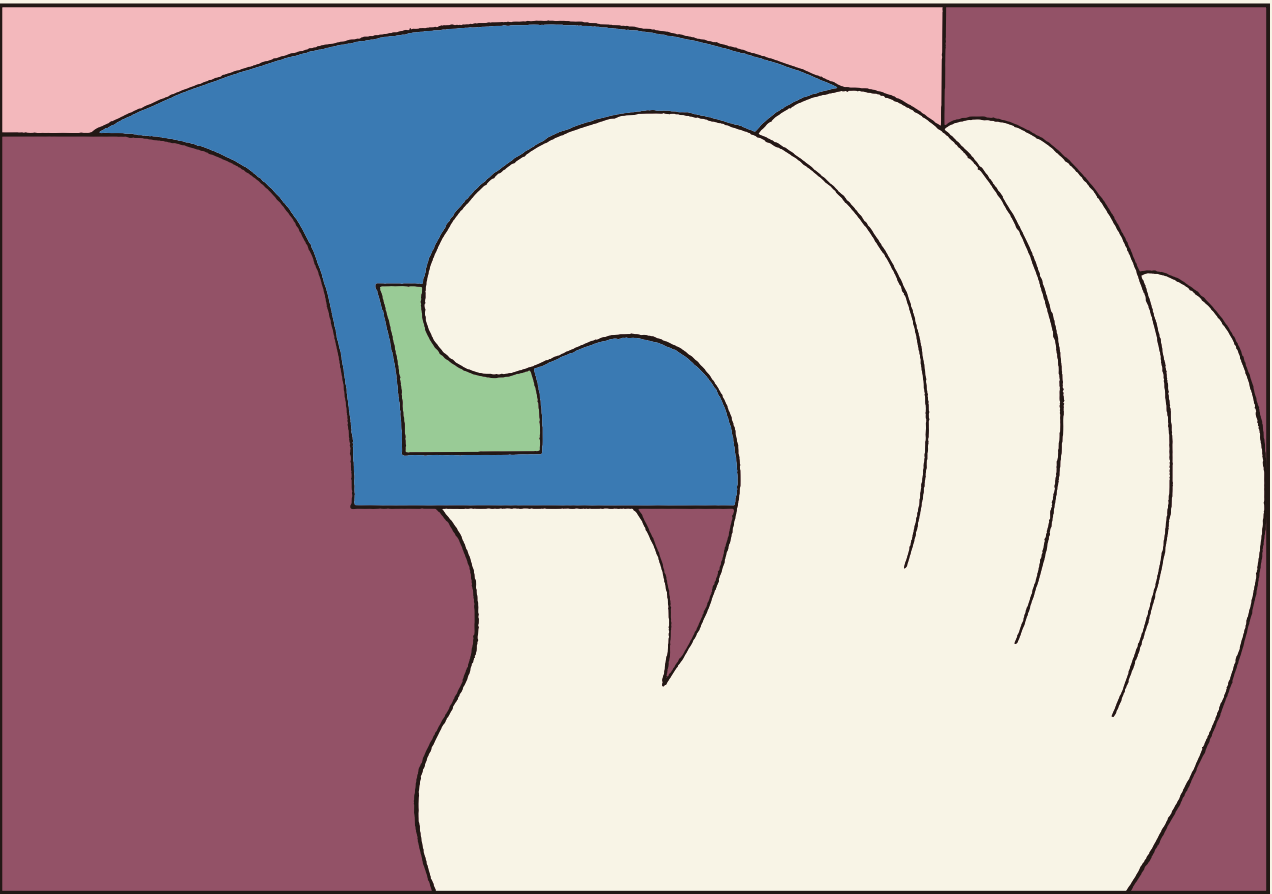
二〇二四年一月二〇日(土)ー三月二四日(日)二〇時ー二七時

〔休館日〕毎週月曜日、二月八日(木)、三月二四日(木) ※二月十二日(月)は開館 〔観覧料〕無料

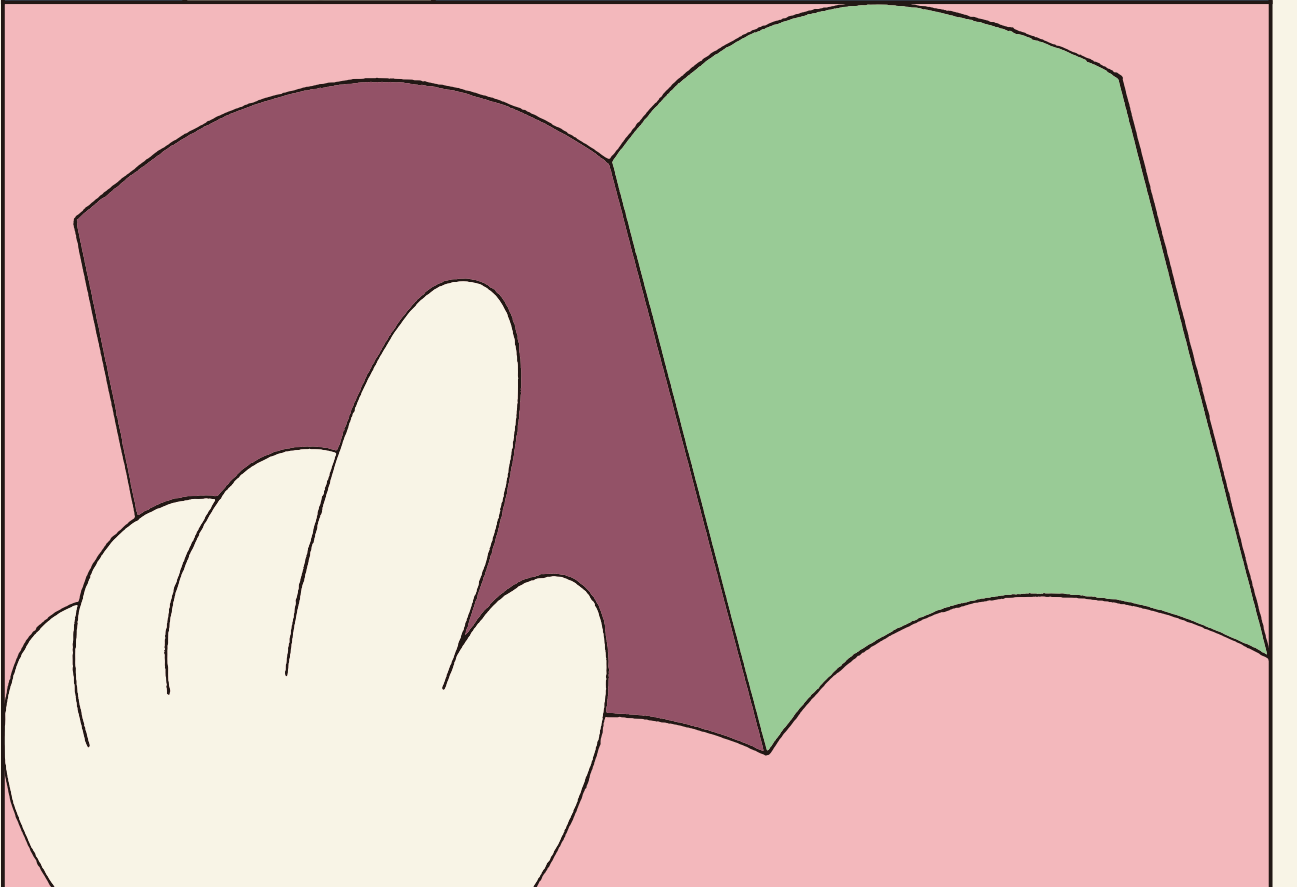
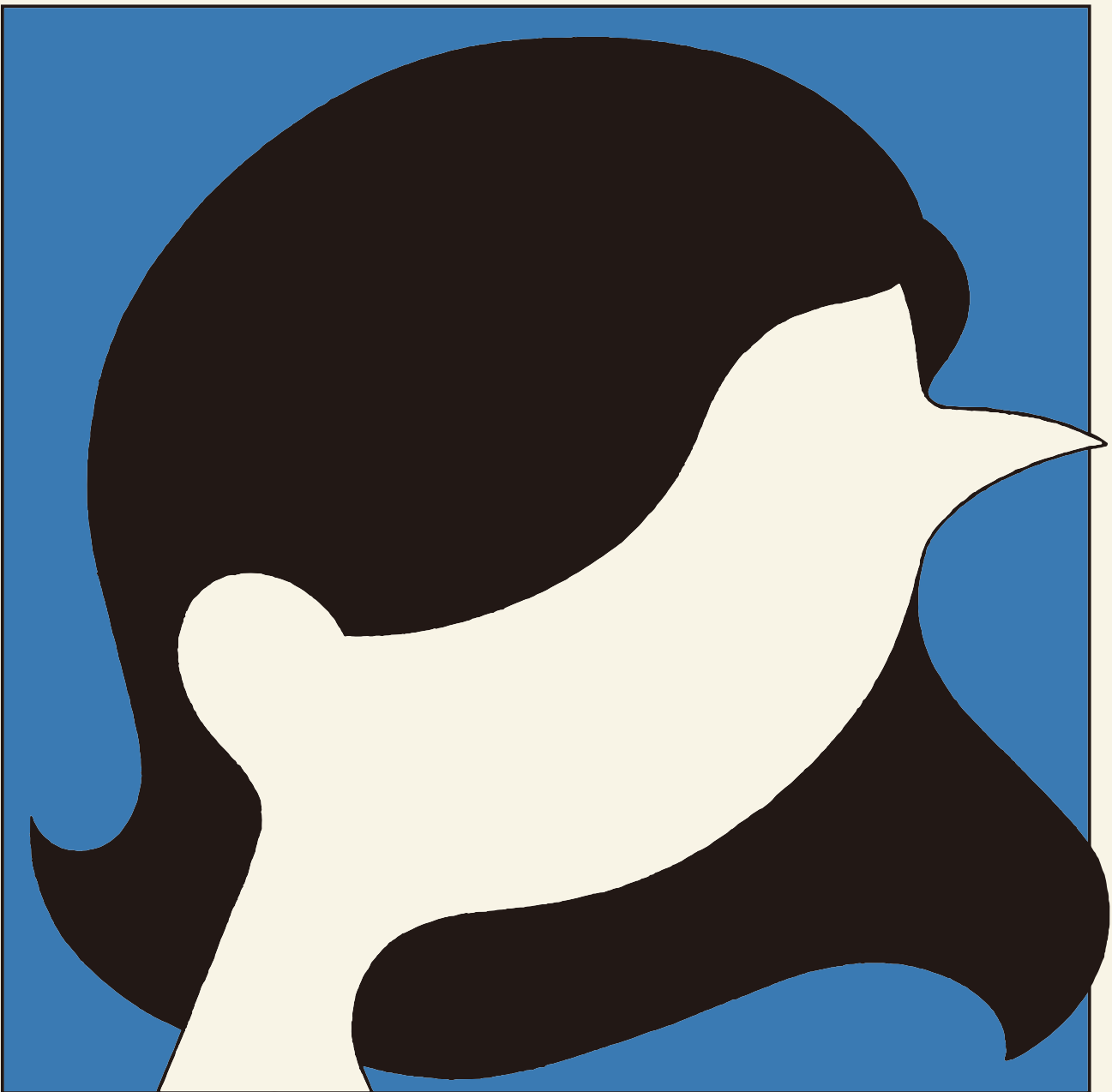
〔特別協力〕大正イミジイ学会、大正こゝろサイイ研究所、山田俊幸 〔協力〕お茶の水女子大学歴史資料館、株式会社橋原はいばら、群馬県立土屋文明記念文学館

町田市民文学館ことばらんど 〔住所〕〒194-0003 東京都町田市原町田 4-1-17 〔電話〕042-739-3340 〔FAX〕042-739-3341 〔Eメール〕042-739-3341

少女たちのお手紙文化
1890-1940展
変わらぬ想いは時を超えて



二〇二四年一月二〇日(土)ー三月二四日(日)二〇時ー二七時
「休館日」毎週月曜日、二月八日(木)、三月二四日(木) ※二月十二日(月)は開館 「観覧料」無料
〔特別協力〕大正イミジニリ学会、大正こゝろデザイン研究所、山田俊幸 〔協力〕お茶の水女子大学歴史資料館、株式会社榎原「はいばら」、群馬県立土屋文明記念文学館
町田市民文学館ことばらんど 〔住所〕〒一九四〇〇二三 東京都町田市原町田 四一六ー一七
〔電話〕〇四二七三九三四〇〔FAX〕〇四二七三九三四二



少女たちのお手紙文化
1890-1940展
変わらぬ想いは時を超えて

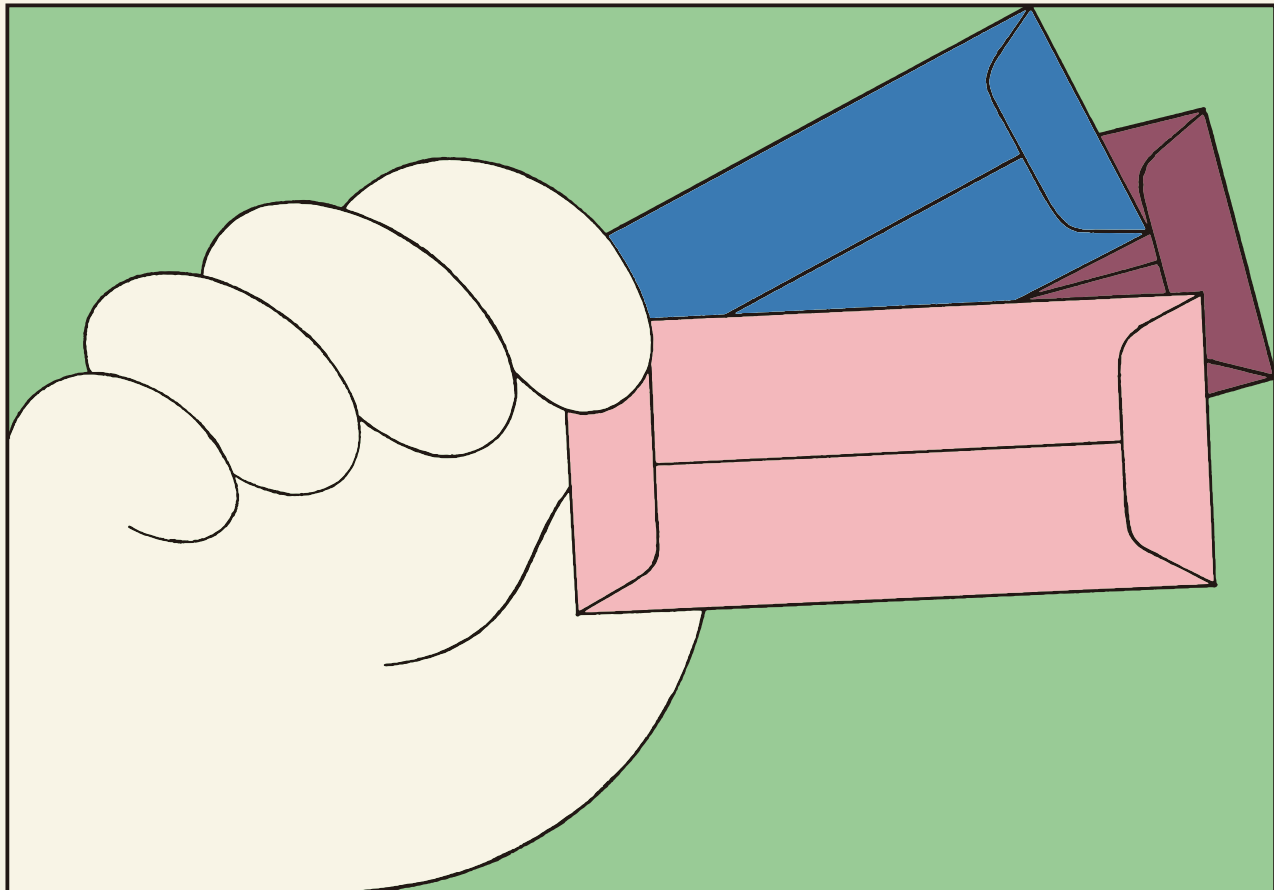
二〇二四年一月二〇日(土)ー三月二四日(日)二〇時ー二七時

〔休館日〕毎週月曜日、二月八日(木)、三月二四日(木) ※二月十二日(月)は開館 〔観覧料〕無料

〔特別協力〕大正イミジイ学会、大正こゝろサイイ研究所、山田俊幸 〔協力〕お茶の水女子大学歴史資料館、株式会社橋原はいばら、群馬県立土屋文明記念文学館

町田市民文学館ことばらんど 〔住所〕〒一九四〇〇三三 東京都町田市原町田四一六ー一七 〔電話〕〇四二七三九一三四〇 〔FAX〕〇四二七三九一三四二二

少女たちのお手紙文化
1890-1940展
変わらぬ想いは時を超えて



二〇二四年一月二〇日(土)ー三月二四日(日)二〇時ー二七時
「休館日」毎週月曜日、二月八日(木)、三月二四日(木) ※二月十二日は開館 「観覧料」無料
〔特別協力〕大正イミジニリ学会、大正・こゝろデザイン研究所、山田俊幸 〔協力〕お茶の水女子大学歴史資料館、株式会社榎原「はいばら」、群馬県立土屋文明記念文学館
町田市民文学館ことばらんど 〔住所〕〒一九四〇〇二三 東京都町田市原町田 四一六ー一七
〔電話〕〇四二七三九三四〇〔FAX〕〇四二七三九三四二

最後に いつです か？ お手紙 を書いた のは

かつて手紙は、人々をやわらかく結びつける大切な役割を担っていました。そこに書き込まれた手書きの文字は書き手の人柄や想いを反映し、読む人にぬくもりを感じさせます。しかしインターネットの普及にともない、一時は最も主要な通信手段であった手紙も、今ではすっかり書く機会が失われてしまいました。ところが近年、デジタル化により時間に追われるようになった生活様式への反省から、文房具や手書き文字は再び注目を集めています。また、人々の行動範囲を制限した感染症の流行が、会えない相手との心のこもった交流ができるツールとして、手紙を見直すきっかけともなりました。

本展では、封筒や便箋などのお手紙道具、明治期から昭和初期にかけてさかんに出版された手紙の用例集、文通の場として読者投稿欄を設けた少女雑誌、そして実際に書かれた手紙などを通して、近代日本において特に少女たちが担ってきた“お手紙文化”を振り返ります。本展を通して、人々をつないできたお手紙文化を見つめ直し、手紙を書くことの楽しさを感じていただければと思います。



①



②



③



⑤



④

- ①「少女世界」第4巻第15号（1909年11月、土屋文明記念文学館所蔵）
- ②③④木版絵封筒各種（大正中期～昭和初期頃、個人蔵）
- ⑤坂内青嵐〈東京女子高等師範学校附属高等女学校生徒服装の変遷「昭和七年以降の通学服」1934年頃（お茶の水女子大学附属高等学校所蔵／複製パネル）

【関連イベント】詳細は当館ホームページをご覧ください。展示解説を除き、会場はいずれも当館2階大会議室です。

◎オープニング記念講演会

切手デザイナーのおしごととレトロかわいい切手のひみつ 講師：貝淵純子（切手デザイナー）

大正ロマンを代表する画家・竹久夢二の図案をもとに作られた切手「グリーティング（ライフ・花）竹久夢二の花図案」（2022年発売）を手掛けた日本郵便（株）の切手デザイナー・貝淵純子さんに、切手製作の裏側と、その奥深さをうかがいます。

1月21日[日] 14:00～15:30 / 定員：80名（申込順）

申込方法：

- 1次：12月15日[金] 正午から18日[月] 19:00まで
イベシスで受付（イベントコード：231219E）
- 2次：12月19日[火] 正午からイベシス及び
イベントダイヤル（042-724-5656）で受付。

◎ワークショップ

なぜって楽しむ、はじめてのガラスペン教室

講師：Tommy / 越智知美（ペン字クリエイター）

『名言を楽しむ ガラスペンでなぞる手書きフォント』（ナツメ社）の著者に、ガラスペンですてきな字を書くコツを教わります。大正期の少女たちが愛用したペン習字練習帖をお手本に、ガラスペンに触れてみませんか。

3月2日[土] 13:30～15:30 / 定員：15名（申込順）

材料費：2,500円

申込方法：2月3日[土] 正午から
文学館（042-739-3420）で電話受付。

◎トークショー

昭和レトロ・紙ものの魅力 愛でる喜び、あつめる楽しみ

登壇者：浅生ハルミン（イラストレーター・エッセイスト）

山田俊幸（本展アドバイザー）

どこか懐かしいイラストと独特の感性でつづるエッセイに定評のある浅生ハルミンさんと、大正・乙女デザイン研究所長の山田俊幸さんを迎え、レトロで斬新な「紙もの」の魅力と、それらを蒐集する楽しみや極意を語り合います。

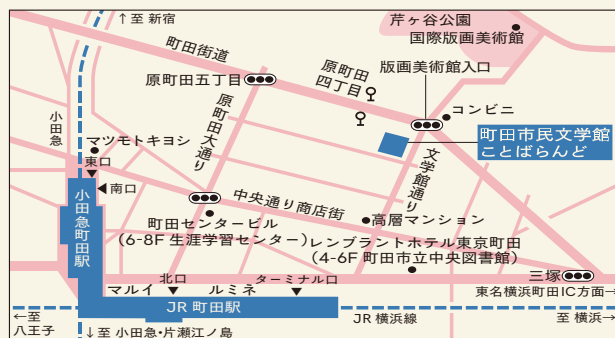
3月17日[日] 14:00～15:30 / 定員：60名（申込順）

申込方法：

- 1次：1月15日[月] 正午から2月5日[月] 19:00まで
イベシスで受付（イベントコード：240206A）
- 2次：2月6日[火] 正午からイベシス及び
イベントダイヤル（042-724-5656）で受付。

◎担当学芸員によるふみの日展示解説

1月23日[火] / 2月3日[土] / 3月23日[土] 各日14:00～
40分程度。申込不要。展示室に直接お越しください。



町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田4-16-17
[電話] 042-739-3420 [FAX] 042-739-3421
JR横浜線町田駅ターミナル口から徒歩8分
小田急線町田駅東口から徒歩12分



☒ @machida_kotoba で最新情報発信中